

〔研究ノート〕

中国のことばと文化・社会（五） ——《治家格言》《古今賢文》の啓蒙教育と儒教文化の伝承——

文 楚雄*

目 次

序

第1部 中国文化の伝承と漢字

第1章 漢字の成立と文化の伝承

(以上, 39巻2号)

第2章 漢字啓蒙教育と文化の伝承

第1節 漢字啓蒙教育による中国文化の伝承

第2節 《三字経》の漢字啓蒙教育と文化の伝承

(以上, 39巻3号)

第3節 《千字文》の漢字啓蒙教育と儒教文化の
伝承

(以上, 39巻4号)

第4節 《弟子規》の漢字啓蒙教育と儒教文化の
伝承

(以上, 40巻3号)

第5節 《治家格言》《古今賢文》の啓蒙教育と
儒教文化の伝承

1. はじめに

2. 《治家格言》の儒教文化の伝承

3. 《古今賢文》の儒教文化の伝承

4. まとめ

(以上, 本号)

第5節 《治家格言》《古今賢文》の啓蒙教育と 儒教文化の伝承

1. はじめに

この節では《治家格言》,《古今賢文》を取り上げる。《治家格言》,《古今賢文》は漢字教育を兼ねた啓蒙教材である。この二つの書物は古今の有名な諺や名文を使い,子供たちに漢字を教えながら,儒教社会における倫理観,価値観,处世術などを教え,儒教文化としての規範などを植え付けていく。《治家格言》,《古今賢文》は構造的にはこれまでに見てきた《三字経》や《千字文》と異なり,句の字数が揃えられておらず,音韻も踏んでいない。意味的には大句と大句の間に繋がりがなく,各文が独立して,一つの文は一つの道理などを表現している。本節では先ず《治家格言》について考察・分類し,十項目の儒教規範をまとめることにした。続いて《古今賢文》について考察し,63項目の儒教規範に整理・分類した。《治家格言》は全文の引用をしている。《古今賢文》については全編が長いことから,引用はその代表的な句だけにとどまる。本節の《治家格言》,《古今賢文》の考察分類を通じて,中国の啓蒙教育は子供たちにどのような儒教文化を教育し,伝承させているのかを更に明らかにしていく。

* 立命館大学産業社会学部教授

2.《治家格言》の儒教文化の伝承

《治家格言》は別名《朱子家訓》、《朱柏盧治家格言》と呼ばれ、清朝初期の学者・朱用純の作品であると伝えられている。朱用純は、字は致一、自称は柏盧と呼んでいた。明朝天啓7年（1627）の生まれ、江蘇省昆山市の人である。朱用純の父親・朱集璜は明朝末期の学者であったと伝えられている。

朱用純は康熙帝在位の時に朝廷博学鴻詞科¹⁾の試験を受けるよう勧められたが、彼は断固として断った。生涯、程朱の理学を研究し、知行合一²⁾の主張を唱えていた。著作に《刪補易經蒙引》、《四書講義》、《愧納集》、《大学中庸講義》等がある。その中、《治家格言》は最も影響力があり、三百年あまり津々浦々に知れ渡っていると言っても過言ではない。《治家格言》は「修身」、「治家」などの精神を趣旨にし、儒者としての世渡りの方法を収録し、儒者の处世術の精華といわれている。その思想や意味にはとても深いものがある。全編わずか109小句、516字だけで、儒者としての規範が示されるのは実にすばらしい。《治家格言》の全文を整理分類すると、およそ次のような儒教規範項目をまとめることができる。

(1)、掃除・飲酒などの日常生活におけるしつけや礼儀作法を教育する。

1. 黎明即起、灑掃庭除、要内外整潔。

(夜が明けたら起床し、掃除をして、家の内外をきれいにしなければならない。)

2. 既昏便息、關鎖門戶、必親自檢點。

(日が暮れたら就寝し、戸締りを自分で確認しなければならない。)

3. 勿貪意外之財、勿飲過量之酒。

(不義の金を買ってはならない。お酒を飲みすぎてはいけない。)

(2)、物を大切にし、儉約の精神を守らなければならないと教育する。

4. 一粥一飯、當思來處不易。

(一杯のお粥もご飯も、みな苦勞のたまものである。)

5. 半絲半縷、恆念物力維艱。

(わずかな糸でも、それを作り出すのは容易なことではないと常に心にとめなければならない。)

6. 自奉必須儉約、宴客切勿流連。

(生活は節約をしなければならない。宴席の飲食は限度をわきまなければならない。)

7. 器具質而潔、瓦缶勝金玉。

(丈夫かつ清潔な食器はたとえそれが土で作ったものであっても、金のもよりも勝るのだ。)

8. 飲食約而精、園蔬愈珍饈。

(節約して丁寧に作った食事は、たとえそれが菜園の物であっても、豪華な食事よりも勝るのだ。)

9. 勿營華屋、勿謀良田。

(豪華な家を建ててはいけぬ。肥えた田畑を買ってはいけぬ。)

(3)、女性の美貌などに拘ってはいけないと教育する。

10. 婢美妾嬌、非閨房之福。

(綺麗な下女や若い妾は、家に幸福をもたらすことがないのである。)

11. 奴僕勿用俊美、妻妾切忌艷妝。

(召使は綺麗な人を使ってはならない。妻や妾は、華麗な装いをしてはならない。)

12. 見色而起淫心、報在妻女。

(美しい女性を見て邪心を起こしたら、将来その報いは妻や娘の処に下りてくるのだ。)

(4)、婚姻相手を選ぶ時の基準や原則を教育す

る。

13. 嫁女折佳婿, 勿索重聘。娶媳求淑女, 勿計厚奩。

(娘を嫁がせるときは、善良で賢い人を選び、高価な贈り物を受け取ってはならない。息子に嫁をもらうときは、善良でやさしい女性を選び、豪華な嫁入り道具を貪ってはならない。)

(5), 親孝行や祖先・長者尊敬の精神を教育する。

14. 重資財, 薄父母, 不成人子。

(金銭を重んじて、親を冷遇するのは、息子のすることではない。)

15. 祖宗雖遠, 祭祀不可不誠。

(祖先は遙か昔の存在となっているが、祭祀は誠意をもって行なわなければならない。)

16. 長幼内外, 宜法肅辭嚴。

(一家の老若男女には、厳しい規則や厳かな言葉の表現があるべきである。)

(6), 家族や親戚の間では助け合いをしなければならないと教育する。

17. 兄弟叔侄, 需分多潤寡。

(兄弟の間、叔父と甥の間では、多く持っている方が少なく持っている人に分け与えなければならない。)

18. 家門和順, 雖饗餐不繼, 亦有餘歡。

(家の中が睦まじいならば、たとえ満足にものが食べられなくても、それは喜ばしいことである。)

19. 見貧苦親鄰, 須加溫恤。

(貧しい親戚や隣人に対して、温かく慰めてあげ、金銭などの援助をしなければならない。)

20. 聽婦言, 乖骨肉, 豈是丈夫。

(女の唆し話を信じて、身内の感情を傷つけ

るのは、一人前の男がすることではない。)

(7), 富貴な人に陥ったり、貧乏人に驕り高ぶったりしてはいけないと教育する。

21. 見富貴而生諂容者最可恥, 遇貧窮而作驕態者賤莫甚。

(富貴な人を見るとすぐに媚びを売るのは、最も恥じる行為である。貧乏人を見るとすぐに驕り高ぶるのは、最も卑しいことである。)

22. 勿恃勢力而凌逼孤寡, 勿貪口腹而恣殺生禽。

(威勢をもって孤児や寡婦をいじめてはならない。自分のお腹を満たすためにむやみに動物を殺してはならない。)

(8), 勉学や人格の形成に励まなければならないと教育する。

23. 宜未雨而綢繆, 毋臨渴而掘井。

(雨が降る前に家を修理し、のどが渇く前に井戸を掘らなければならない。)

24. 子孫雖愚, 經書不可不讀。

(子孫は愚かであっても、五經四書を勉強しなければならない。)

25. 居身務期質樸, 教子要有義方。

(自分は儉約に努め、質素な暮らしをする。子供の教育にはこのような適切な方法を用いなければならない。)

26. 與肩挑貿易, 毋佔便宜。

(小さな物売りや商売するときは、不正な手段で彼らから利益を得てはならない。)

27. 乖僻自是, 悔誤必多。

(性格が偏屈で独りよがりな人は、過ちを犯して後悔することが多いのである。)

28. 頹惰自甘, 家道難成。

(怠惰で後退に甘んじ、自暴自棄な人は家をなすのが難しい。)

29. 倫常乖舛，立見消滅。
（倫常を乱す人はすぐに滅んでしまうことになるのである。）
30. 施惠無念，受恩莫忘。
（人に恩恵を施しても，報酬を期待してはならない。人から恩恵を受けたら，お礼を忘れてはならない。）
31. 凡事當留餘地，得意不宜再往。
（何事も余裕を持たなければならない。満足したら，それ以上に求めてはならない。）
32. 讀書志在聖賢，非徒科第；為官心存君國，豈計身家？
（学問をするものは，志を持ち，賢人の行動に学ばなければならない。試験の結果にとらわれてはならない。官吏なるものは，忠実で愛国心を持ち，自分や家のためにはかりごとをしてはならない。）
33. 善欲人見，不是真善。
（良い事をして人に見せたいのは，真の善行ではないのだ。）
34. 國課早完，即囊橐無餘，自得至樂。
（納めるべき税金をはやめに納めれば，財布の中にお金が残らなくても，大きな喜びが得られるのだ。）
35. 守分安命，順時聽天。
（本分を守り，身分不相応な要求をせず，天命に従わなければならない。）
36. 為人若此，庶乎近焉。
（以上のようなことができれば，賢人のなすことと変わりがないのだ。）
- （9），惡事を働いたり，人を妬んだりしてはならないと教育する。
37. 人有喜慶，不可生妒忌心。
（人にめでたいことがあるときは，嫉妬してはならない。）
38. 人有禍患，不可生欣幸心。
（人に災いごとがあるときは，喜んではいない。）
39. 惡恐人知，便是大惡。
（悪いことをして見つかるのを恐れるのは大きな惡事を働いたことなのだ。）
40. 匿怨而用暗箭，禍延子孫。
（心中に恨みを抱え，影で人に害を与えたら，将来の子孫に災いを残すことなのだ。）
- （10），交友や隣近所の付き合いの規範を教育する。
41. 居家戒爭訟，訟則終凶。
（日常生活では争いごとや訴訟を避けなければならない。勝敗に関わらず，訴訟は損害をもたらすからである。）
42. 處世戒多言，言多必失。
（世渡りには口数を少なくしなければならない。言葉が多ければ必ず過失があるのだ。）
43. 狎昵惡少，久必受其累。
（素性の悪い少年と親しくすれば，必ず被害をこうむるのだ。）
44. 屈志老成，急則可相依。
（経験豊かで品德のある人を心から慕えば，難のときには助けとなるのだ。）
45. 輕聽發言，安知非人之譖訴？當忍耐三思。
（人の話を丁寧に聞かずに軽々しく信じれば，それが人の悪口だと知ることが出来ようか。辛抱強くよく考えなければならないのだ。）
46. 因事相爭，焉知非我之不是？需平心暗想。
（小さなことで争いを起こせば，自分の過ちだと知ることが出来ようか。心を静めて反省しなければならないのだ。）
47. 刻薄成家，理無久享。

(人に冷薄な態度をとって事業をなした人は、長く続くことが出来ないのだ。)

48. 三姑六婆, 實淫盜之媒³⁾。

(正職以外の職に就いている三姑六婆という女達は、姦淫と窃盗の媒介者なのだ。)

3.《古今賢文》の儒教文化の教育

《古今賢文》は、別名《昔時賢文》、《増広賢文》と呼ばれ、古今の有名な諺などの文句347大句を収録している。一大句は2～4の小句から構成され、全部で711小句が集められ、いわば古今の名文集である。これらの名文は儒教倫理や価値観、人生に関わる奥深い道理や処世術などを表している。この書物は明朝の万暦時代(1574 - 1619)に原型が成立し、その後多くの人々により修正を加えられ、今日のような347大句の形になったと言われている。《古今賢文》に出ている道理や処世術をざっと整理すると、少なくとも次のような63項目の儒教規範が見られる。

(1), 先人達の経験を鑑みなければならない。

1. 觀今宜鑒古, 無古不成今。

(今日を観察するときには歴史を見なければならない。歴史の続きは今日なのである。)

(2), 相手の気持ちを思い知る。相手の身になって自省する。

2. 知己知彼, 將心比心。

(自分のことも相手のこともよく知らなければならない。相手の身になって物事を考えなければならない。)

(3), 人と付き合うとき、思っていることを全部吐かないように。

3. 逢人且說三分話, 未可全拋一片心。

(人と話すときには深く入り込まないように留意しなければならない。思っていることを

すべて吐き出してはいけない。)

(4), 世の中は思うようにならない。

4. 有意栽花花不開, 無心插柳柳成陰。

(わざわざ植えた花なのに花が咲かず、何気なく挿したヤナギの枝なのにいつの間にか陰をなす。)

(5), 人の心を知るのが難しい。

5. 畫虎畫皮難畫骨, 知人知面不知心。

(トラを描く時には皮などの外観を描くことができるが、骨を描くのが難しい。人の顔を知ることではできるが、心を知るとは難しい。)

(6), 仁義の価値は金銭より遥かに高い。

6. 錢財如糞土, 仁義值千金。

(銭や財産は糞便や土の如く、仁義こそが千金に値する。)

(7), 長い観察のあとで初めて人の心を知ることができる。

7. 路遙知馬力, 事久見人心。

(長い距離で始めて馬の力を知ることができる。長い観察で始めて人の心を知ることができる。)

(8), 同郷人を大切にしなければならない。

8. 美不美, 鄉中水, 親不親, 故鄉人。

(最も美味しい水は故郷の水であり、最も親しい人は故郷の人である。)

(9), 悪口を互いに言ったりする悪習がある。

9. 誰人背後無人説, 哪個人前不説人。

(裏で悪口を言われていない人はどこにもいない。人の前で他人の悪口を言わない人もどこにもいない。)

(10), お金の力が大きい。

10. 有錢道真語, 無錢語不真。

(お金があれば本当のことを話してくれる。お金がなければ、話したことは本当のことで

はない。)

(11), 世代交替は自然の成り行きである。

11. 長江后浪推前浪, 世上新人趕舊人。

(後の波が前の波を押しすすめる長江の波のように, 世の中は新しい世代が古い世代にとってかわっていく。)

(12), 悪人を防ぎ備え, 用心しなければならない。

12. 山中有直樹, 世上無直人。

(山中には真っすぐな木があるが, 世の中には真っすぐな人がいない。)

(13), ことの始めはとても重要である。

13. 一年之計在于春, 一日之計在于寅, 一家之計在于和, 一生之計在于勤。

(一年のはかりごとは春にあり, 一日のはかりごとは朝にあり, 一家のはかりごとは和にあり, 一生のはかりごとは勤勉さにある。)

(14), 秘密を守るべきである。

14. 守口如瓶, 防意如城。

(瓶の口を封じたように秘密を厳守し, 城壁のように固く防御する。)

(15), 人を裏切ってはいけない。

15. 寧可人負我, 切莫我負人。

(人に裏切られることがあっても, 自分は人を裏切ってはならない。)

(16), 隣近所の助け合いはとても大切である。

16. 遠水難救近火, 遠親不如近鄰。

(遠方の水は間近の火事を救うことができないように, 遠くの親戚の助けよりも近くの隣近所の助け合いの方が大事である。)

(17), 人情の薄さを知るべきである。

17. 人情似紙張張薄, 世事如棋局局新。

(人情は紙のように薄く, 世の中は将棋の盤面のように瞬時に変わる。)

(18), お金を貯めるよりも勉学に励むべきであ

る。

18. 積金千兩, 不如明解經書。

(千金を貯めるよりも経書の勉学研鑽に励むべきである。)

(19), 子供の教育が大事である。

19. 養子不教如養驢, 養女不教如養猪。

(男の子を産んで教育しなければ, 口バを生んだのと同様であり, 女の子を生んで教育しなければ, 豚を生んだのと同様である。)

(20), 賢人などのアドバイスが大事である。

20. 同君一席話, 勝讀十年書。

(あなた様の話を聞いて, 大変勉強になり, 十年の読書にも勝るのだ。)

(21), 女性の規範

21. 在家由父, 出家従夫。

(嫁に行く前には父親に従い, 嫁に行けば主人に従う。)

(22), 疑う心を持つべきである。

22. 寧可信其有, 不可信其無。

(ありうるだろうとあえて信じるべきであり, ありえないだろうと信じてはならない。)

(23), 醜聞は広がりやすいものである。

23. 好事不出門, 惡事傳千里。

(良いことは容易に広がらないが, 悪いことは千里にも伝わっていく。)

(24), 安易な発言などを慎まなければならない。

24. 一言既出, 駟馬難追。

(一度口にした言葉は駟馬を使っても追いつかない。)

(25), 我慢すべき時は我慢する。

25. 忍得一時之氣, 免得百日之憂。

(一時の怒りをこらえて我慢すれば, 百日の憂いを免れることができるのだ。)

(26), お金を貯めない慣習を戒める。

26. 今朝有酒今朝醉, 明日愁來明日憂。
(その日のお金があれば, その日の暮らしをする。明日の憂えは明日で考える。)

(27), 人の死は避けられないものである。

27. 父母恩深終有別, 夫妻義重也分離。

(父母の恩がいくら深くても終わるときは必ず来る。夫婦の愛がいくらあっても終焉のときはある。)

(28), 人はおとなしくしてはいけない。

28. 人善被人欺, 馬善被人騎。

(人がおとなしくしていれば, 他人にいじめられる。馬がおとなしくしていれば, 人に使われる。)

(29), 不正の蓄財で豊かになる風潮を非難する。

29. 人無橫財不富, 馬無野草不肥。

(人はあくどいばら儲けがなければ, 富が積らない。馬は夜の飼料がなければ肥えることができないのだ。)

(30), 天罰は公正である。

30. 人惡人怕天不怕, 人善人欺天不欺。

(人が凶悪になれば, 人々はそれを恐れる。しかし, 天は恐れない。人がおとなしくなれば, その人がいじめられることがある。しかし, 天はいじめないのだ。)

(31), 危機意識を常に持つべきである。

31. 得寵思辱, 安居慮危。

(寵愛を得ているときには恥辱のことを忘れてはならない。幸せに暮らしているときには危機を忘れてはならない。)

(32), 送別のときには名残惜しくても別れが必ず来る。

32. 送君千里, 終須一別。

(千里に見送っても別れるときには別れなければならない。)

(33), 余計な世話をしてはいけない。

33. 閑事休管, 無事早歸。

(余計な世話をしてはいけない。用事のない時にはさっさと帰宅しなければならないのである。)

(34), 悪事をしてはいけない。

34. 善事可作, 惡事莫為。

(善事はするべきであり, 悪事はするべきではない。)

(35), 家庭や遺伝の影響が大きい。

35. 龍生龍子, 虎生豹兒。

(龍は龍の子を生み, トラはトラの子を産む。)

(36), 苦学して出世していく。

36. 十年窗下無人問, 一舉成名天下知。

(苦学の時には誰も訪ねてこないが, いっぺんに有名になれば天下の人々が知るようになるのだ。)

(37), 子供を生んで老後の面倒を見てもらう。

37. 養兒待老, 積谷防飢。

(子供を生んで老後の面倒を見てもらい, 穀物を貯えて飢えに備える。)

(38), 後継ぎがとても大切である。

38. 有兒貧不久, 無子富不長。

(子があれば貧しさはじきに消える。子がなければ富は長く続かない。)

(39), 謙虚な態度で人々に学ばなければならない。

39. 三人同行, 必有我師, 擇其善者而從之, 其不善者而改之。

(三人いれば, 必ず自分の師になる人がいる。その良いところを学び取り, その悪いところを改めていく。)

(40), 若いときには努力して勉強しなければならない。

- 40．少壯不努力，老大徒悲傷。
（若いときに努力しなければ，年取れば悲しむだけになるのだ。）
- （41），災いが近づいていることに気づかない。
41．螳螂捕蟬，豈知黃雀在後。
（カマキリが，後ろにヒワにねらわれているのを知らずにセミを捕らえようとしているように，災いが近づいているのに気がつかない。）
- （42），夫婦の縁は大切である。
42．一日夫妻，百世姻緣。
（たとえただ一日の夫婦であったとしても，百世の縁として見なすべきなのだ。）
- （43），広い度量を持たなければならない。
43．將相胸前堪走馬，公候肚里好撐船。
（胸に馬が走れるように，腹に船が漕げるように，将相や公候は大きい度量をもたなければならない。）
- （44），運命に任せるときがある。
44．死生有命，富貴在天。
（生死は運命にあり，富と地位は天命にある。）
- （45），善悪には報いがある。
45．善有善報，惡有惡報。不是不報，日子不到。
（善には善の報いがあり，悪には悪の報いがある。）
- （46），時間のたつのが早い。
46．光陰似箭，日月如梭。
（光陰は矢の如し，月日の経つのは織り機の手のように早い。）
- （47），人の和が大切である。
47．天時不如地利，地利不如人和。
（天の時は地の利にしかず，地の利は人の和にしかず。）
- （48），勉学こそが最重要である。
48．世上萬般皆下品，思量唯有讀書高。
（世の中の万事には重要なことはただ一つ，それが勉学なのだ。）
- （49），妻の役割が重要である。
49．妻賢夫禍少，子孝父心寬。
（良妻がいれば夫には災いが来ないのだ。子には孝行の心があれば，親の心が慰められるのだ。）
- （50），貧しくても志が消えない。
50．人老心未老，人窮志莫窮。
（年取っても気が衰えない。生活が困窮しても志はけっして貧困にならない。）
- （51），人には誰でもいつか禍が来る。
51．人無千日好，花無百日紅。
（人がいつまでも幸せであり，花がいつまでも綺麗に咲くことはあり得ない。）
- （52），忠告が大切である。
52．忠言逆耳利于行，良藥苦口利于病。
（忠言は耳に逆らうけれども，行いにとってはためになる。薬は，口には苦いけれども，病には効く。）
- （53），天に従うべきである。
53．順天者存，逆天者亡。
（天に従うものは栄え，天に逆らうものは滅ぶ。）
- （54），人間は金銭のために奮闘する。
54．人為財死，鳥為食亡。
（人は金銭のために身を滅ぼし，鳥はえさのために身を滅ぼす。）
- （55），人は見かけで判断してはいけない。
55．凡人不可貌相，海水不可斗量。
（海水が升で量ることができないように，人は見かけだけで判断してはいけない。）
- （56），仁義の気持ち大切である。

56. 千里送毫毛，禮輕仁義重。

(千里はるばる鵝毛を贈るように，物は軽いけれども，その仁義の気持ちが大きなものである。)

(57), 役所・役人の腐敗が蔓延する。

57. 衙門八字開，有理無錢莫進來。

(衙門が大きく開いているが，理があっても金がなければ入ることができない。)

(58), 才子を育てなければならない。

58. 家中無才子，官從何處來。

(家に才子がなければ，どうして官が生まれるのだろうか。)

(59), 人を許すべきである。

59. 欺人是禍，饒人是福。

(人を欺くのが禍であり，人を許すのが福なのである。)

(60), 家族の睦まじさが大事である。

60. 父子和而家不退，兄弟和而家不分。

(父子が睦まじければその家は繁盛し，兄弟が睦まじければその家は割れることがないのだ。)

(61), 普段の努力が必要である。

61. 閑時不燒香，急時抱佛脚。

(普段には線香1本もあげないが，いざと言うときにひたすら仏の足にすがりつく。)

(62), 困っているときには助けてくれる人が欲しくなる。

62. 國亂思良將，家貧思賢妻。

(国が乱れる時には良き将軍が欲しくなり，家が貧しい時には良妻が欲しくなる。)

(63), しっかりしていれば恐れるものはない。

63. 根深不怕風搖動，樹正無愁月影斜。

(根が深ければ風には恐れない。幹がまっすぐであれば，斜めの影には心配要らない。)

4. まとめ

中国の儒教文化の教育や伝承は漢字啓蒙教育と共に始まるのである。漢字啓蒙教育における識字の字数が増えていくにつれて，啓蒙教育に使うことばや文も少しずつ長くなり，少しずつ難しくなっていく。内容も少しずつ深まっていく。その少しずつ難しくなっていくステップの代表的な書物として《治家格言》，《古今賢文》を挙げることができる。上述の考察で分かるように，《治家格言》，《古今賢文》は構造的には《三字經》や《千字文》より一句の字数が多くなり，長さも伸びている。大句と大句の間の字数も音韻も必ずしも揃えていない。これは構造の易しさや覚えやすさよりも教育の内容を重視していると見ることができる。子供たちの精神的成長に必要な儒教的規範やしつけ，価値観などの教育に重点をシフトしている。教育内容は非常に多面的となっている。親孝行の精神，兄弟愛の精神，夫婦愛の精神，勉学の精神，儉約の精神，弱い人を助ける精神，交友の基準，女子の規範，善悪を見分ける能力，世の中瞬時変化の厳しさ，お金の大切さ，時間の大切さ，度量の大きさ，隣近所付き合いの大切さ，人間の誠実さ，子供の大切さなどの儒教文化の基本を教育し，伝承させているのである。《治家格言》，《古今賢文》は《三字經》や《千字文》などの教材を習った後に使用する儒教文化の教育や伝承の教材として実にすばらしいものであることが上述の考察で分かる。

注

- 1) 博学鴻詞科は，科挙試験制度の中の一試験科目，天子が命題して，受験者が天子に向かって答える試験科目。南宋高宗紹興三年(1133)に始まり，康熙帝の十八年(1679)と乾隆帝元年(1736)の二回行われた。合格者は翰林官に授

与する。《辞海》

- 2) 知行合一は中国の王陽明が唱えた学説。朱熹の先知後行説に対して、知識や認識は必ず実行を予想しているものであり、知って行わないのは真に知っているのではないとし、知（真の認識）と行（道徳的实践）とは表裏一体をなすと

説く。《大辞泉》

- 3) 三姑六婆、三姑とは「尼姑・道姑・卦姑」（尼・道教の尼・八卦見）を指す。六婆とは「牙婆・媒婆・師婆・虔婆・薬婆・穩婆」（周旋屋・仲人・巫女・やりて婆・薬売り・産婆）を指す。